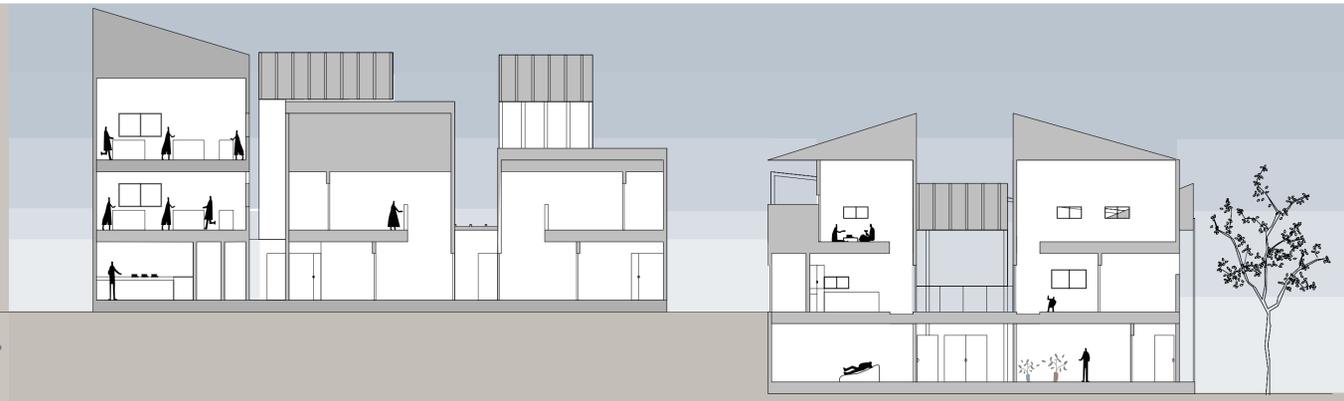


巡る 一人と人の出会いを繋ぐ町

熊坂 美優

温泉・美術館・四季折々の自然景色に多くの観光客が心惹かれている。これが、私たちの「箱根」へのイメージである。しかし、箱根から東京までは通勤圏内であり、OLショッピングが発達した現在、定住できる観光地といえるだろう。

トライアルライフを送ることで、移住のフィット感を探り、地域住民とのコミュニティや移住への疑問、不安を解消するチャンスににならないか。一定期間箱根に住むことで、観光地としての箱根とは違う、居住地としての箱根の魅力を知ってもらいたい。



1. コンセプトー混在する3つのコミュニティ

「トライアルハウスの住民」・「地域住民」・「観光客」の3コミュニティが自然と交流できる場を目指す。各コミュニティが使う空間をパズルの1ピースと捉え、3ピースを混在させた配置計画にする。トライアルハウスの窓を開けたら「どこからいらしたのですか?」「今日の昼食はカレーなのですね。」などといった会話が始まるような小さい交流があちこちで起こる場を提案する。

2. 箱根の課題ー観光客減と消滅可能性都市

箱根には2つの面の課題がある。観光客・働く人・住む人がいないと観光地として成り立たない。そのうえ、消滅してしまうかもしれない。箱根の未来は決して明るくないといえる。

1-1 観光面

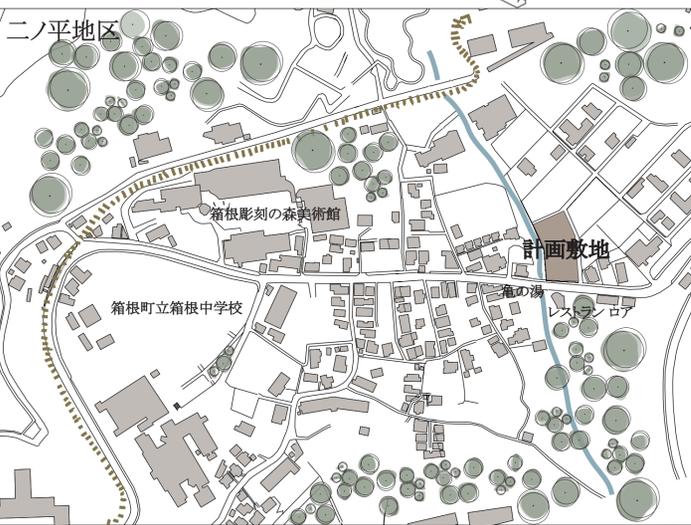
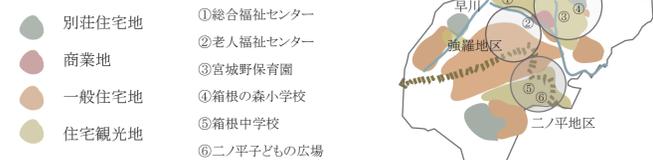
- ・コロナ禍による観光客減少
- ・労働力人口の減少
- ・引退世代の増加に伴う貯蓄率の低下
- ・インバウンドの減少

1-2 社会面

- ・消滅可能性都市
- 2010年から2040年にかけて、20~39歳の若年女性人口が5割以下に減少する市区町村

3. 計画敷地ー住人と観光客に満足される地域

一敷地周辺の地区特徴



計画敷地 〒250-0406 神奈川県 足柄下郡 箱根町 小涌谷 520

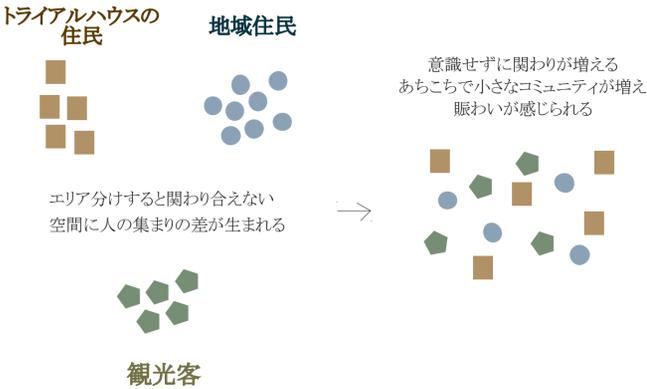
準住居地域・敷地面積/3,155.35㎡



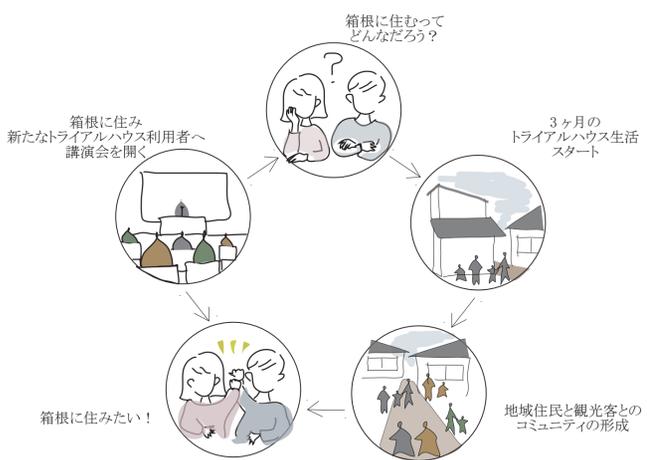
・現在は箱根町社会教育センター
・図書・大浴場・作業室・視聴覚室・会議室・調理室・工作工芸室・茶室・軽スポーツ室等がある
・箱根の年配者から子どもなど地域住民が使用する場

4. 出会いを繋ぐ町の仕組み

ー小さなコミュニティ



ートライアルから始める暮らし



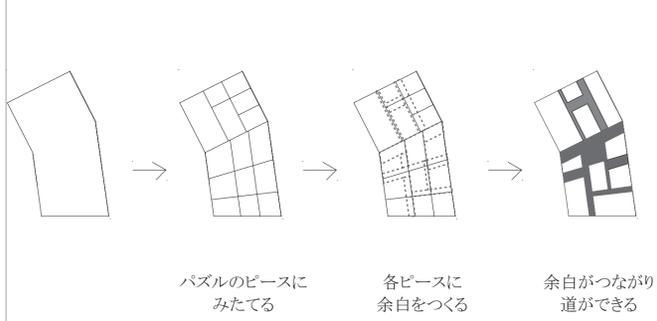
ー15個の機能

利用者ー ■トライハウスの住民 × ●地域住民 × ▲観光客ー

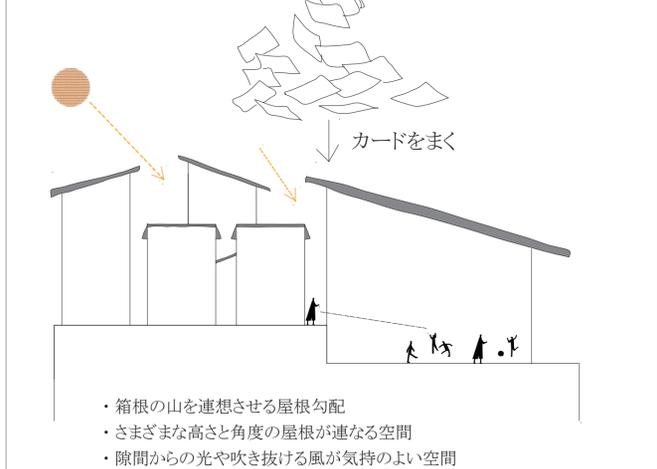


5. あそびごころある建物計画

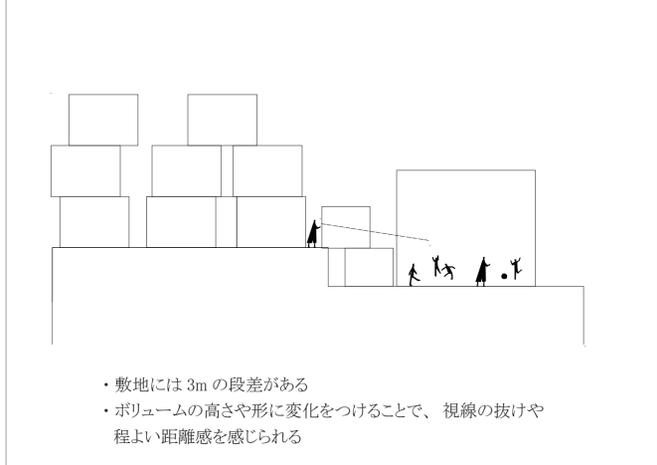
ーパズルのピースー平面計画ー



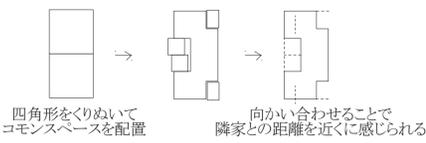
ーカードをまくー屋根ー



ーつみきを重ねるー断面計画ー



3F 平面図 1/250

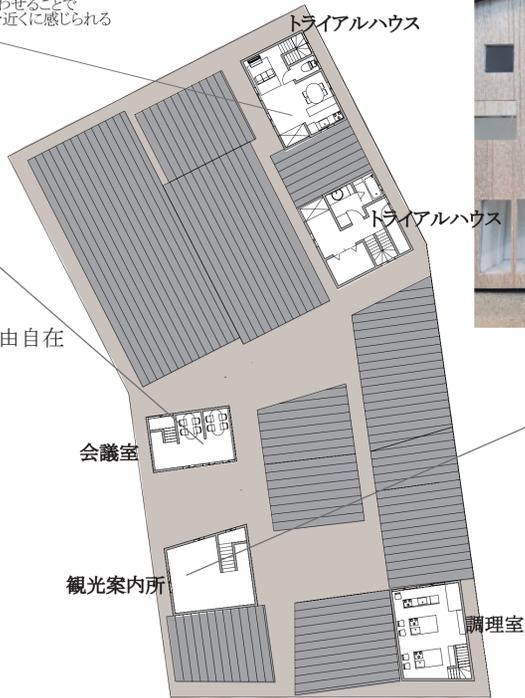


トライアルハウスーCOMMONスペース

- ・内外の壁と心の壁を取っ払うためのCOMMONスペース
- ・訪問者はガラス越しに住民の趣味を見ることができる
- ・住民は外での活動を見ることができる
- ・吹き抜けにより家族との縦の空間の繋がり+隣人とのコミュニケーション確保

1-2F 工作室 3F 会議室

- ・工作室と会議室を同じ棟に配置
- ・共有して使うことにより、空間に空気がでないため、賑わった印象になる
- ・間仕切りを設け、2グループでも1グループでも大人数でも、会議形態が自由自在



観光案内所

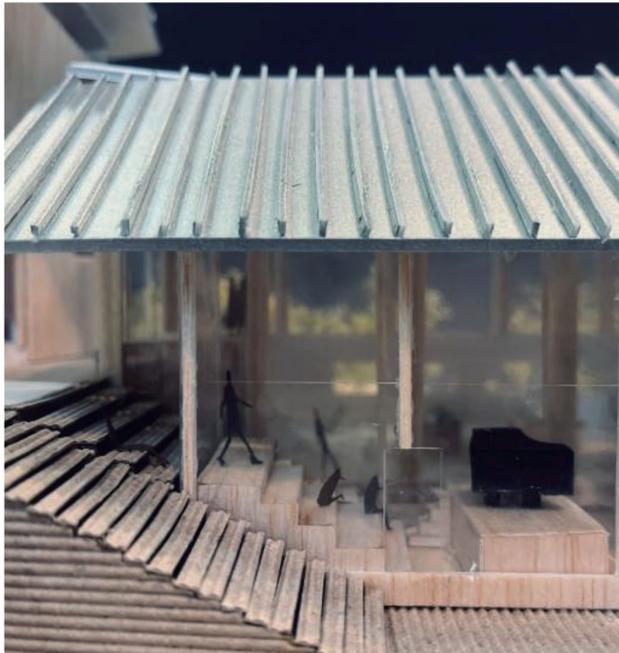
- ・入り口角の敷地を3階にすることで敷地全体を見渡すことができる



2F 平面図 1/250

体育館

- ・3m 差を活かして体育館の中の様子を上から見学できる
- ・体育館の2階部分に移動でき、応援することができる
- ・スポーツを行う人も見学者も楽しむことができる



視聴覚室

- ・コンサートとしても休憩所としても使用できる
- ・敷地の3m 差を活かす
- ・階段の蹴上を30cmと15cmに分け、座ったり上り下りしたりできる
- ・座れる階段スペースからコンサートを見学でき、楽しめる



1F 平面図 1/250

足湯

- ・北(駅の方)から人の流れが多い
- ・敷地周辺に来た際に1番最初に目を引くように足湯を設置
- ・足湯の後ろのガラスから観光案内所の扉(ガラス)を通して敷地内での活動の様子が伺える



図書室ー internal library/exercise library

- ・internal library には調理本・観光地・会議など知識系の本
- ・exercise library には運動やお風呂・サウナなど活発的な本
- ・本を読むために敷地内を移動することで気分転換になる
- ・図書館(ガラス張り)を通して他の建物での活動見学ができる

1F カフェ 2F 調理室

- ・観光客・地域住民・トライアルハウス住民など多くの人が利用する
- ・ガラス張りになっているため、2Fからは銭湯が見えるほど見晴らしがいい
- ・調理室ではお料理教室を開催
- ・カフェでは料理教室で作った料理や町内の飲食店との連携で料理販売がされる

